

管船局 遠洋課長

長井 實行

拓務省

拓南局 第三課長

青木 熊雄

第三課

事務官

豊原 信夫

理事官

加藤 義明

外務省

亞米利加局長

寺崎 太郎

亞米利加局 第一課

事務官

廣田 積

第二課長

大野 勝巳

第二課

公使館書記官

高田 實

事務官

前田 憲作

事務官

松野 幹太郎

通商局 第五課長

法華津 孝太

第五課

大使館書記官

細川 鎗太郎

第四回「ラテン・アメリカ」對策研究會順序

頁

一 挨拶

寺崎 亞米利加局長

一

二 本邦移民送出問題小委員會ノ經過報告

大野 亞米利加局第二課長

四

三 通商工作問題等報告

法華津 通商局第五課長

七

四 物資買付統制令問題經過報告

上野 貿易局歐米課長

八

五 米洲方面配船問題經過報告

長井 遞信省管船局遠洋課長

一〇

六 エクアドール國最近ノ動向報告

高田 公使館書記官

一四

七 墨西哥ニ於ケル邦人企業問題報告

松野 外務事務官

結城 亞米利加局第一課長

八 米國ノ最近ノ動向報告

二〇

第四回「ラテン、アメリカ」對策研究會配布資料

一 米洲情報第四號乃至第六號及特輯

一 「ラテン、アメリカ」諸國政情第三號

第四回「ラテン、アメリカ」對策研究會議事要録

(七月七日於第八會議室)

(本要録ハ速記ニ非ズ要領筆記ナリ)

○寺崎外務省亞米利加局長

本日ハ第四回「ラテン・アメリカ」對策研究會ヲ開催致シマスルニ
除シ一言御挨拶申上マス

國際情勢ノ逼迫ニ伴レ「ラテン・アメリカ」ニ於ケル情勢モ日増シ
ニ緊迫ヲ加ヘテ多リマシテ我方ニトリマシテハ「ラテン・アメリカ」
ノ動向ハ一層其ノ重要性ヲ認メラルルニ至リマシタ即チ米國ノ
對歐戰態度ノ尖銳化ト共ニ其ノ「ラテン・アメリカ」制覇政策ハ益
々積極的且露骨トナリマシテ特ニ之等諸國ニ産スル重要物資ニ關
シマシテハ之ヲ獨占シ樞軸國側ヘノ流出ヲ防遏スル爲「ラテン・ア
メリカ」諸國ノ必要トスル米國產品ノ供給差止メヲ武器トシテ米
國品ノ再輸出禁止及「ラテン・アメリカ」產重要物資ノ米洲外ヘノ

輸出ニ對シ禁止若ハ制限措置ヲ採ラシムヘク國別工作ヲナシツツ
アリマス又他方「ラテン・アメリカ」產重要物資ノ共同輸出統制機
關ヲ組織シ全般的ニ其ノ米洲外ヘノ流出ヲ抑制セントスル企圖ヲ
ヘアルノテアリマス既ニ伯國ニ於テハ工業用「ダイヤモンド」其
他我方必要物資ノ米國以外ヘノ輸出ヲ禁止シ又壘國ハ米國ト相互
ニ重要物資ノ供給ヲ保障スル協定ヲ締結シ米國資本ニ係ル銅、鉛、
亜鉛ハ勿論ノコト水銀、螢石等重要物資ヲ獨占シ我方ノ買付ヲ完
全ニ閉メ出サントシ其ノ他ノ諸國ニ於テモ殆ント例外ナク此ノ種
輸出制限指直カ誦セラレテ居リマシテ我方ノ必死ノ努力ニ干預ラ
ス此ノ方面ニ於ケル重要物資ノ獲得ハ尋常一樣ノ手段テハ殆ント
絶望テアルト云フ域ニ達シテ居リマス又米國ハ西半球防衛ノ名目
ノ下ニ米洲共同戦線ノ結成ヲ主張シ米國參戰ノ場合「ラテン・アメ
リカ」諸國ヲ其ノ追件レニセンカ爲種々ナル工作ヲ行テ居リマス
カ着々奏效シツツアル模様テ從來比較的米國ノ壓迫ニ對シテ反抗

態度ヲ採ツテ居タ諸國例ヘノ伯國ノ如キヲ最近大分怪シクナツテ
來タ様テアリマス

以上述ヘマシタ様ナ次第テ今ヤ餘程思ヒ切ツタ工作ヲ行ヒ特殊ノ
方法ニ依ルコトカ残サレタ唯一ノ途テアル様ナ感カアリマス此ノ
一ラアン・アメリカ一對策研究會ヲ今ヤ角度ヲ變ヘテ非常手段ニ依ル
非常時局對處策ヲ講スル様御心掛カケ願ヒタイノテアリマシテ本
日ノ會合ノ議題ヲ其ノ意味ニ於テ進メラルルコトヲ希望シテ居ル
次第アリマス

之ヨリ別紙順序書キニ依リ議事ヲ進メタイト存シマスガ私ハ緊急
已ムヲ待ナイ要務ガアリマシテ中座致シマスノテ大野亞米利加局
第二課長ヲシテ代テ司會致サセマス

○大野亞米利加局第二課長

本邦移民送出問題ニ關シ過日關係各省係官ノ間ニ小委員會ヲ開キ
討議研究ヲ重ネマシタ結果對策トシテ次ノ如キ決定ヲ見マシタ

一 恒久的對策

對伯移民送出ニ關スル恒久的對策トシテハ既ニ二十萬以上ヲ算
シ確固タル地盤ヲ獲得セル在伯本邦人社會ニ絶ヘス新鮮ナル後
續部隊ヲ送り以テ既得ノ權益ヲ保持スルト共ニ將來ノ發展ニ資
セシムル様措置スル要アリ右根本方針ニハ變更ナシ

ニ 差當リノ措置

(1) 我對伯移民ガ全然入國禁止ヲ受ケルガ如キ事態ヲ招來スルコ
トナキ様現地、中央共ニ極力適切ナル工作ニカムベキハ勿論
ナルモ差當リ伯國移民審議會ノ審議ノ推移ヲ注視シ其ノ意見
決定ヲ見ル迄ハ先方ヲ刺戟セザル様措置シ暫ク事態ヲ見送り
既得ノ地歩ヲ確保スルコトニ重點ヲ置クコト

(2) 右移民審議會ノ意見我方ニ不利トナリ伯國政府ニ於テ右意見ヲ採用スルガ如キ事態ニ立到ルトスルモ我方トシテハ驕ギ立ツルコトナク又先方ニ對シ卑屈ノ態度ヲ示サズ事態改善方ヲ冷靜ニ考究施策シ先方ノ態度變更ノ兆ヲ待チ機ヲ促ヘテ進出ヲ遂クルコト

(3) 六月二十一日神戸出帆豫定ノ「ぶえのすあいれす」丸ニテ送出スベキ移民ハ過般石射大使ガ大統領ト交渉ノ結果査證取付濟ノ四百名ニ限定シ七月便船ニテ送出スル計畫ノ移民ノ新募集ハ當分之ヲ差控フルコト

在伯石射大使ニ對シマシテハ右ニヨリ措置方訓令濟デ目下現地ニ於テ折角施策中デアリマス尙對伯移民送出問題ニ關シマシテ考慮スベキ諸事情其他ニ付テハ説明ヲ省略(本要録末尾ニ附録トシテ添附セリ)致シマスガ今次ノ獨蘇戰爭ニ伴フ米洲方面情勢ノ急變ニ依リ對伯移民ノ送出ハ一時之ヲ差控ヘル必要ヲ感シ

テ居リマス而シテ伯國側ニ於テモ亦米洲國人以外ノ入國ヲ全面的ニ禁止スル措置ヲ執ルヤモ知レナイトモ傳ヘラレテ居ル状態ニアリマス

移民送出問題ニ付テ御質問等無ケレバ次ニ移リ通商工作問題ニ關シ法華津通商局第五課長ヨリ御報告願ヒマス

○法華津外務省通商局第五課長

中南米ヨリノ物資獲得問題中各國別ノ最近ノ關係、積取狀況等ニ
シテハ配布率ノ調査ニヨリ調承知ヲ願ヒマシテ此席ニ於キマシ
テハ最近ノ中南米方面ニ於ケル樞軸側ニ不利ナル情勢ニ鑑ミ此際
舊套的ナ措置ヲ改メ所謂經濟戰爭的ナ手段ヲ執ルコトノ必要性ニ
付テ協議致シ度イト思ヒマス此點ニ關シマシテハ既ニ陸海軍、企
劃院、商工省等ノ御贊同ヲモ得マシテ機ニ應シ變ニ處シテ自由ナ
ル手ヲ打チ得ル態勢ハ一應整ツテ居ルノデアリマスガ今次貿易統
制令ニヨリ一層有效ニ買付ヲ爲シ得ル可能性モ生ジタ譯デアリマ
スシ物資買付ト不可分ナ關係ニアル配船計畫ヲ付キマシテモ東海
岸方面ヲ減配シ西海岸方面ニ増配シテ今日尙比較的買付ノ可能性
アル西海岸方面物資ヲ可及的多ク獲得スル様措置スルコトニナツ
テ居リマス

○大野外務省亞米利加局第二課長

只今ノ法華津課長ノ御話ニ關シ御質問等無ケレバ上野貿易局歐米課長ヨリ貿易統制令ニ關シ御説明ヲ願ヒマス

○上野商工省貿易局歐米課長

只今ノ法華津課長ノ御話ニモアリマシタ貿易統制令ニ關シマシテハ之ガ施行規則ハ既ニ公布済デアリマシテ其ノ運用方針ニ付テモ關係省間ニ一應諒解済デアリマス唯之ガ實施ニ少シ手間取ツテ居リマス輸入命令ヲ受ケタ者ニ對スル損失補償ノ範圍ノ問題ニ付テ大藏省ト目下話合中デアリマスガ此問題ニ付テハ輸入命令ヲ受ケタ者ガ勿論例外時デアリマスガ利益ヲ得タ場合之ヲ返納セシム可キモノナリヤ否ヤト云フ問題ガアリマシテ結局之ハ返納セシムベキモノデアツテ總テノ輸入取引ヲ一律ニ手数料主義ニスベシトノ意見モアリマス次第デス

中南米カラノ物資買付ニ付テハ陸海軍トモ協議シ成ル可ク早クヤ

リ度イト思ツア居リマス

尙輸出統制ニ關スル損失補償如何ニ付テハ未タ考慮シテ居リマセ

ンガ原則的ニハ補償シナイコトトナリマセウ又既約品ニ付テハ目

下大藏省ト協議中デアリマス

尙又損失補償ハ貿易業者ニ對シアノミデアリマスガ間接的ニハ製

造業者ニ及ブ譯デアリマス

○大野外務省亞米利加局第二課長

只今ノ上野課長ノ御話ニ御質問等無ケレバ次ノ問題ニ移リ米洲方

面配船問題ニ關シ長井遞信省管船局遠洋課長ヨリ御説明願ヒマス

○長井逓信省管船局遠洋課長

米洲方面ニ對シテハ我國トシテハ從來共相當ナ配船ヲ爲シテ居リ
 例ヘバ北米東岸ニ對シテハ優秀貨物船北米西岸ニ對シテハ最優秀
 客船ヲ配シテ居リ他ニ「シヤトル」航路ヲモ維持シテ居リマス中
 南米方面ニ對シテハ東岸ニ大阪商船・山下汽船等西岸ニ日本郵船
 川崎汽船等ガ就航シテ居リマシテ距離ノ關係モアリマスガ比較的
 豊富ナ配船ヲ行ツテ居リ尙不足ナ點ハ外國船ノ「チャイター」ニ
 ヨツテ補ツテ居リマシタ状態デスガ今次歐戰勃發後ハ外國船ノ「
 チャイター」モ漸次困難トナツテ來マシタノテ郵船一層ノ増配ニ
 努メテ來タ様ナ状態デアリマストコロガ最近東亞共榮圈内ニ於ケ
 ル船腹不足ノ深刻化ニ伴ヒ遠洋航路ヨリ船腹ヲ補充スベト云フ
 要望ガ強マツタノデアリマスガ種々ノ事情ヨリシテ急速ニ之ガ實
 現ヲ見ナカッタノデアリマス然ルニ最近中南米諸國ニ於ケル輸出
 制限措置ノ強化、北米ノ壓迫的態度等ニ鑑ミ本邦配船計畫ノ再偏

ヲ機トシテ米洲方面ノ配船ヲモ此際變更スルコトト致シマシタ之
 ニ付テハ關係各省ノ御意見ヲモ承リ度イト思ツテ居リマスガ大体
 北米東岸方面ハ一時杜絶スルコトトナリ西海岸方面ニハ尙多少廻
 シ得ルコトニナルト思ヒマス南米東岸方面ハ物資ニ富ンテ居リマ
 スノテ極力配船ヲ維持シ寧ロ常ニ増配ヲ考慮シテ參ツタノデアリ
 マスガ前述ノ如キ事情ニヨリマシテ九月船ヲ向ソカラ出發セシメ得
 ルヤ否ヤ確言シ得ナイ状態ニアリマス從テ七月、八月ノ便船ヲ有效
 ニ利用スルコトヲ協議致シタ様ナ次第デアリマス西海岸ニ付テハ
 稍有利ナ情勢ニモアリマスノテ増配ヲ考ヘテ居リマス積取荷物ノ
 コトニ付テハ商工省トモ協議致シ度イト思ツテ居リマス現在ノ方針
 トシマシテ緊要ナコトハ如何ニシテ彼ノ地ヨリ迅速ニ物資ヲ持來
 ルカト云フコトニアリマスガ之ニハ寄港地ヲ少クシ途中ノ荷役ヲ
 少クスルト云フコトガ必要ニナツテ來ルノデアリマスガ此點ニ付
 テモ商工省ト協議連絡ヲ遂ゲ度イト思ツテ居リマス

○青木拓務省拓南局第三課長

先刻御話ノ九月船トハ結局七月日本ヲ出發スル船ニナルモノト思ハレマスガ又阿弗利加廻リモ中止ニナルト云フ譯デスカ

○長井遞信省管船局遠洋課長

九月船ガ最後トナルト云フコトハ結局今カラ本邦ヲ出發スル船ヲ差止メルコトニナリマス又阿弗利加廻リ南米航路モ結局中止ニナルモノト思ハレマス、復航ニ阿弗利加方面ニテ抑留サレル惧モアリ且又現在デハ阿弗利加方面ニハ積荷モ無イ様ナ状態デアリマス

○加藤拓務省拓南局第三課理事官

内地東洋方面ノ配船ニシテ不急不要ノモノヲ整理シ南米東岸方面ヘノ配船ハ可及的ニ之ヲ維持シテ載キ度イト思ヒマス

○長井遞信省管船局遠洋課長

勿論配船計畫ノ樹立ニ當ツテハ凡ユル方面ニ於ケル不急不要ヲ斥ケ極力重點主義ニ則リ之ガ能率ノ高度化ヲ考ヘテ居リマス南米東

岸線ノ重要性ハ充分之ヲ認メテ居リマスガ現下ノ事態ニ於テ前記ノ如キ措置ニ出デマスコトハ已ムヲ得ナイコトト思ツテ居リマス

○上原企畫院總務室第三課長

本件ハ更ニ物動計劃トモ睨ミ合セテ具体的ニ決定スル他ナイト思ヒマス

○大野外務省亞米利加局第二課長

配船問題ハ現下ノ重要問題デアリ其ノ影響スル所頗ル廣汎デアリマスガ只今長井課長御説明ノ措置ハ現下ノ國際情勢下ニ於テ已ムヲ得ナイモノト思ヒマス

次ニ南米「エクスアドル」國ニ付テ同國ハ最近米國方同國領「ガ」ラバゴス「島」ヲ軍事基地トシテ獲得セントシテ盛ニ工作ヲ續ケテ居リマシテ南米諸國中米國ニ對シテ最モ弱イ一環ヲ形成シテ居リマスノチ高田書記官ヲシテ同國最近ノ動向ニ付テ説明致サセマス

○高田公使館書記官（外務省亞米利加局第二課）

一「エグアドル」秘露國間ノ國境問題ハ過去一世紀ニ亘ル懸案デ智利秘露間ノ「タクナ」一「アリカ」歸屬問題一「ボリヴァ」一「パラグワイ」間ノ「チャコ」問題一「コロンビア」一「ヴェネスエラ」及一「コロンビア」一「エグアドル」間國境劃定問題等一「ラテン・アメリカ」ニ於ケル幾多國境紛爭解決後現在殘サレタ唯一ノ未解決國境紛爭デ今日デモ現地デ小競合ヲ繰リ返シテ居ル有様デアリマス

一「エグアドル」ハ昨年七月ノ「ハヴァナ」會議デ本紛爭ニ言及シ同會議デ米洲諸國間紛爭ノ平和的解決ニ關スル決議カアリマシテ右ニ基キ去ル四月中米、伯、亞三國外務大臣カラ兩國政府ニ對シ本紛爭ノ友好的調停ノ申シ入レカアリ一「エグアドル」ハ無條件デ之ヲ受諾シマシタカ秘露側トシテハ紛爭區域ノ大部分ニ對シ現ニ其ノ主權ヲ行使シテ居ル關係上寧ロ現狀維持ヲ有利トシ第三國ノ調停ヲ好マス今同米伯亞三國提議ニ對シテモ國境劃定問題ノミニ

止メ領土及住民ノ歸屬問題ハ討議セサルコトノ條件付テ受諾シタ
 ト傳ヘラレテ居リマス
 最近「エクスアドル」國ニ出張サレタ柳井公使ノ報告ニ依レハ「エ
 クアドル」國人ハ祕露カ何時攻撃シテ來ルカモ知レナイト云フ異
 常ナ恐怖心ヲ有シ祕露ニ對スル反感ハ頗ル熾烈デ祕露ヲ目シテ「
 ラテン」。アメリカニ於ケル唯一ノ樞軸側國家ナリト斷シ在祕日
 獨伊在留民ノ祕露援助ヲ眞面目ニ信ジテ居ル向カ多イ由デアリマ
 スカ新聞紙等ニモ我在祕邦人第二世カ祕露國軍隊ニ參加シテ「エ
 クアドル」ニ鉾ヲ向ケテ居ルト云フ様ナ「デマ」モ屢々現ヘル
 ル状態デアリマス

「エクアドル」外務大臣ハ又柳井公使ニ對シ祕露トノ國境問題ハ全ク重大ナ状態ニ在リト述べ祕露側ガ着々戰備ヲ進メテ居ル次第ヲ心配氣ニ語ツタ由デアリマスガ此ノ間ニ處シ米國ハ「ガヤキル」ニ宣傳本部ヲ置キ殆ンド奇天外ナ「デマ」ヲ連發シ新聞紙ニ掲載トシメ「エクアドル」國ガ祕露トノ實力抗爭ニハ到底勝日ナク一ニ米國ニ頼テ其ノ好意的調停ヲ求ムル外ナイ立場ニアラテ利用シ經濟的軍事的援助ヲ好餌ニ米國ノ軍事基地設置ノ爲「ガラバゴス」島ノ割讓乃至租借ヲ得ント工作シテ居ル模様デアリマス「エクアドル」國要路ノ大官中ニハ内心樞軸側ニ心ヲ寄セツツアル者モ相當アル様デアリマスガ肝腎ノ大統領ハ就任直前迄英國系石油會社ノ顧問辯護士デアツタ經緯モアリ英米側トノ關係頗ル密接デ米國ノ對「エ」工作ハ八分通り成功シテ居ルモノト見ラルルノデアリマス

他方對樞軸國關係ハ既ニ獨逸系「セツタ」航空會社ニ對スル壓迫
 及二、三獨逸人ノ國外追放等ノ事件ガ發生シテ居リマスガ在住外
 國人中最大多數ヲ占メテ居リマス獨逸人ノ勢力ハ相當根強ク前述
 ノ「セツタ」ヲ始メ「ナチ」黨支部、獨逸人學校「トランスオー
 シヤン」通信社等ハ尙事業ヲ繼續シテ居リマスガ獨逸人關係石油
 利權モ米國ノ指金ニ因ル壓迫ヲ追々苦境ニ陥リ又「セツタ」ハ最
 近英米系石油會社ガ一致シテ「ガソリン」ノ賣止メラシタ爲次第
 ニ事業細少ヲ餘儀ナクサレツツアリマス
 次ニ「エクアドル」國一般官民ノ對日感情ハ少ク共現在迄ノ處
 特ニ險惡ト云フ程ノコトハナイノデアリマスガ同國ニハ協和鑛業
 會社ガ石油利權ヲ持ツテ居リ目下技師ヲ派遣シテ鑛區ノ調査ヲ行
 ツテ居リマスガ米國側ノ使噓ニ因リ種々壓迫措置モ講セラレテ居
 ル模様デ最近ノ電報ニ依レバ大統領ハ協和鑛業ノ現地「エクア
 ドル」人支配人ニ對シ祕露トノ國境紛争ニ關聯シ「エクアドル」

ノ對日感情ノ惡化及同此邦人技師ニ對スル「スパイ」嫌疑ノ噂等
 ニ顧ミ今後ハ邦人技師ノ入國ヲ差シ止メ度キ旨ノ意嚮ヲ洩ラシタ
 由テ同支配人ハ此ノ際會此側カラ進ンデ右邦人技師ヲ信頼シ侍ル
 土地人技師ニ代ラシムルヲ可トスベシト我出先ニ甲出テテ居リマ
 ス我方トシアハ右ガ明カニ米國側ノ壓迫ニ由ルモノト認メラルル
 關係モアリ此地支配人ヲ奮勵シ對策ヲ講セシムルト共ニ萬一邦人
 技師追放等ノコトガ豫測サルル場合ハ嚴重抗議スベク我出先ニ於
 テ折角成行監視中デアリマス何シニスルモノ「エグアドル」國ノ
 米國追隨ハ日益ニ濃厚トナリ米參戰ノ場合ニハ先ツ其ノ道連レト
 ナルモノト認メラルルノデアリマス尙「エグアドル」ト秘露ト
 ノ國境紛争ニ關聯シア「エグアドル」ハ專ラ米國ノ援助ヲ賴リ
 トシ軍艦等モ譲リ受ケタコトニ對シ秘露ハ甚ダ心好カラズ思ツテ
 居ルノデアリマシテ秘露ノ對米依存性モ最近相當濃厚トハナツテ
 來テ居リマスガ對「エグアドル」關係上我方ニ對シ一脈ノ好意

ヲ 繁イデ置キ度イト云フコトモ考ヘテ居ル候様デアリマシテ我方
トシアモ此ノ間ノ極秘ナル消息ヲ考慮シ封秘工作ニ利用スル要ガ
アルト忌ハレマス

○大野外務省亞米利加局第二課長

次ノ問題ハ墨西哥ニ於ケル邦人企業問題デアリマスカ之ハ只今調書ノ作成カ間ニ合ハス而モ相當長時間ヲ要スル問題デモアリマスノテ調書ハ後刻各位ニ送付申上ゲルコトトシ小委員曾ニカケテ具體的ニ討議スルコトニ致シ度イト思ヒマス

依テ次ノ米國最近ノ動向報告ニ移ルコトトシ結城亞米利加局第一課長ノ代リニ同課ノ廣田事務官ヨリ説明カアリマス

○廣田外務省亞米利加局第一課事務官

米國最近ノ動向トシマシテ最近一ヶ月間ノ出來事ヲ列舉シマスレバ先ツ「ロビンムーア」號事件、在米獨伊資金凍結問題、全米ニ於ケル獨伊領事館閉鎖問題並ニ之ニ對スル獨伊側ノ報復、「ロビンムーア」號事件ニ對スル損害賠償問題等々テ米國カ獨伊側ニ對シ矢繼早ニ壓迫的措置ヲ執リツツアルコトカ注意ヲ惹キマス
次ニ獨「ソ」戰ニ對スル米國ノ態度デスガ米國ハ共產主義ハ依然

壓迫ハスルカ獨逸ヲ壓迫スル爲ニ援蘇行爲ニ出ツルト云フ實狀
 ニ在リマス具體的ニ執ツタ指直トシマシテハ蘇聯凍結資金ノ解除
 カアリマス物資ノ供給ニ付テハ蘇聯ノ申込ニ應シ現金ヲ賣渡ス様
 デアリマスカ此點ニ關シテハ現在唯一ノ援蘇物資輸送路タル浦潮
 經由「ルート」ヲ利用スル爲米國ハ當分ノ間中立ノ宣言ヲ留保ス
 ルデアラウトモ見ラレテ居リマス
 米國ニ於ケル共產黨ノ動向ニ關シテハ其ノ參戰反對ノ「スローガ
 ン」ハ其儘トシ別ニ「無條件蘇聯援助」ト云フ看板ヲ掲ケテ居リ
 マス從テ能業問題ニ關シマシテモ例ノ共產黨系ノCIO方面カラ
 ノ使嫉煽動ハ下火ニナルノデハナイカト思ハレマス次ニ對英援助
 武器貸與ノ問題デスガ過般本件法案ノ可決ハ見マシタカ米國內外
 ノ情勢ヨリ見テ結局カケ聲ノミニ終リ計畫通りノ實效ヲ舉ケルコ
 トハ困難ト思ハレマス

○上原企畫院總務室第三課長

巴奈馬運河閉鎖説カアリマスカ右ハ事實デスカ

○大野外務省亞米利加局第二課長

公電カナクドウモ新聞電ノ「デマ」ノ様ニモ思ハレマスカ我方ノ
配船計畫變更ニ關聯シタ「ニュース」カモ知レマセン

○篠原少佐、參謀本部第二部第六課

「カムチャツカ」地方ニ關シ米蘇間ニ空軍基地設定ニ關シ協定成立セリト傳ヘラレマスガ真相如何

○廣田外務省亞米利加局第一課事務官

海軍情報ニハアリマシタガ未ダ公報ニハ接シテ居リマセン

○小長谷外務省亞米利加局第三課長

猶太避難民ノ問題ト關聯シ本邦人ノ中南米諸國ヘノ入國困難トナリツツアル折柄米國ハ最近日本人外交官ノ入國ニ對シテモ其ノ都度本國政府ニ伺ヒヲ立テシムルコトトシ又其ノ他ノ本邦人ハ華府ニ在ル知人ヲ通ジテ直接國務省ヨリ、入國許可證ヲ取付ケ之ヲ以テ在本邦米國ニ査證ヲ願ヒ出ル手續ヲトルコトトナリマシタ

○大野外務省亞米利加局第二課長

中兩米方面ニ於ケル本邦人ノ入國旅行等ガ最近非常ニ困難ニナツ
 テ來タマトニ關聯シマシテ最近現地テ起ツタ實例ヲ申上ゲ御參考
 ニ供シ度イト思ヒマス、ソレハ適般壘四哥ノ三浦公使ガ御信任狀
 呈呈ノ爲「グワテマラ」ニ出張シマシタ際（三浦公使ハ「グワテ
 マラ」國兼任）歸途本國飛行會社ハ「サボタージュ」防止ヲ理由
 ニ同公使ノ何物ノ検査ヲ要求シタ件デアリマス、三浦公使ハ外交
 官ノ特權ヲ主張シ之ヲ拒否スルト共ニ「グワテマラ」政府ニ對シ
 強硬ニ抗議シマシタガ小國ノコトトテ妥領ヲ待ズ且ツ又他ニ交通
 機關モアリマセンデシタノテ已ムヲ待ズ特權ハ留保シツツ自發的
 形式ノ下ニ何物ノ検査ヲ許シタ次第デス

本件ニ關シテハ目下米國及ビ「グワテマラ」兩國政府ニ對シテ嚴
 重抗議中テハアリマスガ現在米洲方面ニ於ケル交通機關ガ尋ラ米
 國ノソレニ依存シテ居リマス關係上慎重考慮ヲ要スル問題デアリ

マシテ從テ關係各省ニ於カレテモ今後米洲方面ニ赴カレル際ニハ
 豫メ當方ト御協議願ヒ度イノデアリマス

次ニ之ハ本對策研究會トハ直接關係ノナイコトデアリマスガ此
 機會ヲ利用シマシテ各位ニ御紹介申上ゲ御援助ヲ願ヒタイト思フ
 ノデアリマス

ソレハ今般「ラテン、アメリカ」ノ問題ニ關シ官民ノ協力ヲ容易
 ナラシムル團體トシテ「ラテン、アメリカ中央會」ト云フモノノ
 成立ヲ見タコトデアリマス。從來共「ラテン、アメリカ」關係ニ
 ハ數多ノ團體が存在シ其間何等ノ連絡統制ナク仕事ノ上ニテモ相
 互ニ矛盾、重複ヲ來ス惧ガ多クツタノデアリマスガ最近「ラテン、
 アメリカ」ニ對スル米國ノ壓迫策動ノ積極化ニ伴ヒ民間關係者ニ
 於テモ此際「ラテン、アメリカ」關係諸團體ノ統合連絡ノ機關ヲ
 設置シ強力ナル組織ノ下ニ一致シテ政府ノ政策ニ呼應シテ仕事ヲ
 ヤツテ行キ度イト云フ希望ヲ抱イテ來タノデアリマス。「ラテン、

アメリカ中央會」ハ以前ノ「ラテンアメリカ協會」及ビ「移民問題研究會」兩者ノ發展的解消ニヨリ成立シタモノデアリマスガ其ノ目的トスル所ハ「南洋關係團體聯合會」「與亞同盟」等ノ例ニ倣ヒ前述ノ如ク「ラテン、アメリカ」關係諸團體間ノ有機的統一的ナ連絡ヲトルコトニアリマス、又他ノ目的トシマシテハ現在關係團體ノ無イ國例ハバ「コロンビヤ」其他數ヶ國ノ如キ國々ト我國トノ友好關係ヲ増進スル事業ヲモヤツテ行キ度イト意圖シテ居ルノデアリマス

本會ノ事業トシテハ毎月一回機關誌「ラテン、アメリカ研究」ヲ發行シテ居リマスシ今後ハ啓發的講演等ヲモ行フ豫定デアリマス、又中南米向ノ將來ノ中堅實業人養成ヲ目的トスル實習移民ノ派遣ニ關スル事業ノ一部及ビ其他官廳ノ事業トスルニ不便ナルモノヲ代行スルコト等ガ考ヘラレテ居リマス

役員トシテハ一條實孝公ヲ會長トシ林前大使、大倉喜七郎男ヲ副

會長・内山前公使ヲ理事學長トシ理事評議員等ニハ多數各界ノ名士
等ヲ網羅シテ居リマシテ内容ノ充實シタ會デアリマス・何卒各位
ニ於カレマシテモ此會ノ主趣目的等ヲ御諒解ノ上御利用御支援ヲ
御願シ度イト思フノデアリマス・同會當學者ノ依頼モアリマシタ
ノテ一寸御紹介申上ゲタ次第デアリマス
本日ハ既ニ豫定ノ時間ヲ經過致シマシタノテ之ヲ以テ閉會致シマ
ス・御多忙中ノトコロヲ有難度ウ御座イマシタ。(了)

對伯移民送出問題

一 我方ノ對伯移民送出ニ關シ考慮スベキ諸事情

(一) 今策歐戰ノ進展ニ伴フ米洲方面情勢ノ緊迫化ト共ニ伯國ニ於テハ本年一月猶太人ノ不正入國禁止ヲ理由トシテ外國人ノ入國査證制限ヲ行ヒ引續キ關係法令ノ公布ヲ見タル處本邦移民ノミハ現ニ本年ニ於テモ依然相當數入國ヲ繼續シ居ル爲先方ノ注意ヲ惹キ現ニ伯國政府部内特ニ新タニ外國人入國査證ニ關スル事務ノ主務官廳トナリタル内務省方面ニ於テ相當問題トナリ居ル状態ナリ

(二) 伯國ニハ現ニ二十萬以上ノ同胞在留シ居ル處日米間一朝有事ノ際ニハ此等同胞中可成ノ數ヲ占ムル棉作業者ハ伯棉ノ對日輸出杜絶ニ基ク棉花ノ値下リ滯貨等ノ爲直接深甚ナル影響ヲ受ケ其生活ヲ脅カサルルニ至ル惧多分ニアリ而シテ此等棉作業者ノ他作物ヘノ轉向モ亦容易ナラズトセバ今後ノ移民送出係關シテハ本

問題ハ慎重ナル考慮ヲ要スルモノナリ

(三) 前項ニ關聯シテ問題トナルハ我方轉失業者對伯移民送出ノ問題ナルガ我國ニ於テハ中小商工業者ノ轉失業者ヲ適當指導救済スル要アルハ云フ迄モ無キ儼ナルガ此等轉失業者ヲ對伯移民トシテ送出スル件ニ關シテハ既ニ在伯石射大使ヨリ屢々其ノ不可ナル所以ヲ電稟シ來リ居レリ即チ對伯移民ハ農業移民ヲ建前トシ居ルニ付非農業移民ヲ送出スルハ伯國側ニ於テ之ヲ喜バズ又我方ニトリテモ農業ニ經驗乏シキ移民ヲ多數送出スルコトハ此種移民ガ早晚都市ニ集中シ來リテ種々面倒ナル問題ヲ惹起シ延テハ恰好ノ排日材料ヲ提供スルニ至ルベキハ從來ノ經驗ニ徴シテ明カニシテ此點ニ關シテハ過般ノ「ぶえのすあいれす」丸移民中ニ多數(約四割)農業ニ適セザル移民ノ包含セラレ居リタル事實アリ右ハ伯國側ノ聞知スル所トナリ關係方面ノ注意ヲ惹起シタルミナラズ二三ノ伯國新聞ノ如キハ本件ニ關シ我方ニ不

44

ニ 伯國ニ於ケル外國人入國制限ノ實情

利ナル記事ヲ掲載シタル事實アリ時節柄此種問題ニテ伯國側ノ關心ヲ刺戟スル事ハ頗ル不利且危險ナルニ付善處ヲ要スル次第ナリ然ルニ前回ノ便船「あらびあ」丸ニ於テハ轉失業者ノ混入率更ニ著増シテ農業ニ適セザル移民總數ノ約六割ニ達シタル趣ナル處本件ハ此際適切ナル措置ヲ執ルノ要アリ

(一) 在伯國獨伊兩大使ノ我方石射大使ニ内話セル所ニヨレガ、獨伊兩國人ハ現在ニ於テハ伯國ニ入國不可能ナル状態ニ在ル趣ニテ又本邦人ニシテ紐育「ブエノス・アイレス」方面ヨリノ入國者ハ我方大使館ノ盡力斡旋ニモ拘ラズ入國査證取付困難ナル趣ナリ本邦ニ於テモ現ニ「マカプ」發電所請負工事ノ機械据付ノ爲竹中工務店ノ一技師ノ入國査證ノ如キハ累次取付方交渉中ナルモ未ダ實現ヲ見ザル状態ニ在リ

(二) 上述ノ如キ伯國側ノ態度ノ眞因如何ニ關シテハ大約左ノ二點ニ

歸セシメ得ベシ
 即チ第一ニハ米國側ノ壓迫策動ニ依ルモノニシテ此點ニ關シテ
 ハ昨夏ノ「ハヴァナ」汎米外務大臣會議ニ於テ決議ヲ見タル米洲
 外ヨリノ入國制限竝ニ第五部隊ノ取締申合せ等ニ基キ米國ガ現
 下ノ緊迫セル世界情勢ニ乘ジテ伯國ニ對シテ壓迫ヲ強化シ居ル
 コトハ想像ニ難カラザル所ニシテ米側ニテ伯國政府ニ強要シタ
 リト覺シキ證據アリ第二ノ理由トシテハ伯國ノ國內治安維持上
 ノ必要ニ基クモノニシテ伯國トシテハ交戰諸國ノ諜報宣傳工作
 等ヲ封壓スル必要ヨリ此際一般外國人特ニ樞軸側諸國民ノ入國
 ヲ制限セントシツツアル様見受ケラレ此點ハ見方ニ依リテハ獨
 立セル一理由トハ見ラレス結局米國ヲ憚リ居ルニ依ルモノトシ
 テ前記米國側壓迫ト關聯シ來ルモノナルガ伯國內部ニ於テハ內
 務省ガ少クトモ表面上ハ此見地ヨリ強ク入國制限ヲ主張シ居ル
 模様ナリ

(三) 過般我ガ石射大使ガ伯國大統領ニ謁見ノ際ノ大統領ノ言明竝ニ外務大臣トノ會見ニ於ケル同大臣ノ談話等ニ照シ伯國ガ現下非常事態ニ處シテ從來ノ其移民受容政策ヲ再檢討シ何等カノ變更ヲ加ヘント意圖シツツアルハ明瞭ニシテ右ハ伯國ノ國家主義風潮ノ隆盛ト共ニ益々増大ノ傾向ニ在リ目下伯國政府内移民審議會ニ於テ本件審議中ナル趣ナルガ從來ノ歴史ニ徵スルモ大体我方ニ不利ナル意見ニ落付クベキ可能性多分ニアリ從テ我方トシテハ外國移民ノ入國停止ト云フガ如キ最惡ノ場合ノ到來ヲ覺悟シ置ク要アリ唯最惡ノ事態ニ直面スルモ穩忍自重克ク事態ノ改善ニ努力ヲ傾注スベキハ勿論ニシテ騒ギ立テテ伯國側ヲ不必要ニ刺戟スルガ如キハ愚策ナルモ苟クモ卑屈ノ態度ニ出ツルベカラズ然ラザレバ移民問題ハ單ニ移民問題ニ止マラス物資獲得方面ニモ其ノ累ヲ及ボスノ虞大ナルモノアル實情ニ在リ

極秘

昭和十六年總局第1542號

接受
昭和十六年九月六日

接受ヨリ
起案マデ
ノ日數

日

施行
決判

一、九、八
一、九、八

洋紙同義用紙

總務課長

總務局長

主任

日瑞貿易振興ニ因スル件回答

昭和十六年九月八日

總務局長

外務省通商局長宛

商工省

山根 純一 佐竹
淨書校讀校閱

件名

昭和十六年九月一日附通四極社合第三三四
 三號照會ニ係ル首題貿易ニ関シテ、当省
 トシテ、重要物資ノ取得並ニ彼我貿易
 振興上ノ見地ヨリ左記條件ノ可能ナル下
 ニ之ガ實現ヲ期待スル次第ニ付、右御諒承
 願度

記

- 一 日本側ニ於テ引受ケル伯刺西爾サントス本邦
 向、輸送ノ為、燃料油ハ全量中南米諸
 國ニ於テ取得シ得ルコト
- 二 伯刺西爾サントスニ於ケル積換ハ伯刺西爾
 政府ヲシテ之ヲ認メルコト
- 三 本邦向貨物ハ眞ニ必要ナル物資（例）軸受又ハ

大日本帝國政府

特殊鋼之材(ニ止メバルブ又ハ木材等ハ輸入セザ

ルコト

之ガ為船腹ノ餘裕ハ南米ノ物資ヲ取得スルニ
 由ルニ為、輸出品ハ瑞典ノ希望ヲ尊重スルモ之ガ
 為ニ特ニ原材料ノ手配ヲ要セザル品目ヲトルト

(國定規格5163ニ基キ)

極秘

總務局受

16.9. 8

第 1542 號

通四極秘合第三三四三號

昭和十六年九月一日

商工省總務局長 殿

外務省通商局長

別紙添附

日瑞貿易振興ニ關スル件（瑞典船廻航ノ件）

本件ニ關シ今般在瑞典神田代理公使ヨリ別紙寫ノ通瑞典船ノ本邦直航困難ノ折柄中途南米迄ノ運航方ニ付電報アリタル處當省トシテハ彼我貿易振興ノ見地ヨリ右可能ナル限り之カ實現ヲ期待スル次第ナルモ委曲右寫ニテ御了悉相成御研究ノ上貴省御意嚮何分ノ儀御回示相煩度右電報寫相添へ此段依頼申進ス
本信送付先 商工省、貿易局、遞信省、海軍省

外務省

寫

豊田外務大臣宛在瑞典神田代理公使發八月二十九
日着電報

一、日瑞貿易振興ノ見地ヨリ瑞典船ノ本邦廻航實現方ニ付爾來瑞典側
ト話合中ナル次第ハ御承知ノ通ナル處不取敢瑞典船「ナガラ」號
ヲ以テ此段利用ニ供スルコトトシ交渉ヲ進メタルモ先方當局ノ言
フ所ニ依レハ「同船」ノ本邦向ケ直航方ニ付テハ瑞典當局ニ於テモ種
種考慮シタルモ本船船主及保險會社ハ極東ノ情勢不安ナリトテ之
ヲ引受ケス依ツテ瑞典政府ヨリ非公式ニ英米側ニ對シ右本邦直航
ノ安全保障方ニ付其ノ意向ヲ質シタル處英米トモ今日ハ支障ナキ
モ明日ノコトハ保障シ難シトノコトナレバ本邦向ケ直航ノ件ハ殘
念ナガラ當分見込ナシ然ル處瑞典側トシテハ右「ナ」號積込ノ豫
定ナル日本向ケ貨物ヲ

(イ)積荷ハ「ゴテンモトクグ」船積書、引換現金拂トシ

(ロ)「ゴテンモトルグ」「サントス」間ノ戰時保險ハ買手側ニテ附

(日本標準規格B5)

Göteborg

保シ又

い) 日本側ニ於テ伯刺西爾「サントス」本邦間ノ輸送一切ヲ引受ク
ルコト

ゲテホルク

ヲ條件トシテ九月下旬「ゴテンモトルグ」出港ノ他ノ瑞典船ニ依
リ「サントス」港迄輸送スルコト可能ナルニ付若シ日本側ニ於テ
希望セラルルナラハ右様取計フヘシ」トノコトナリ

ニ就テハ右南米向ケ輸送方御研究ノ上御意嚮何分ノ儀御回電アリ度

1. サントス行日本船ノ燃料油ノ取得
2. パルプ、特殊鋼、軸受、木材

外務省

完結
要再回

昭和 16 年 總局 第 115 / 號

供高覽

接受	昭和 年 月 日	接受ヨリ	日
起案	昭和 16 年 七月 日	起案マデ	日
		ノ日數	
		施行	月 日
		決判	26 月 0、23 日

總務課長 主任

總務局長

貿易局長官

第一部長

歐米課長

總務課長

瑞典ノ通商政策ニ関スル件

標記ノ件ニ関シ外務省通商局長ヨリ別紙
一通、送付越有之タルヲ以テ不取敢以儘

供高覽

非紙同議用紙

昭和 16 年 7 月 26 日 總務課受

總務局受
16.7.5
第 1151 號

通四普通合第二五三九號

昭和十六年六月三十日

商工省總務局長 殿

外務省 通商局



別紙添附

瑞典ノ通商政策ニ關スル件

本件ニ關シ今般在瑞典神田代理公使ヨリ別添寫ノ通報告アリタル
ニ付圖參考迄右茲許送付ス
本信送付先 陸軍・海軍・大藏・商工・通信・農林・拓務各省

金査院

外務省

昭和十六年五月九日

在瑞典

臨時代理公使 神田 襄太郎

外務大臣 松岡 洋 右 殿

瑞典ノ通商政策ニ關スル件

當國外務省通商局長「ヘゲロフ」ハ本月七日「ゴテンブルグ」ニ於ケル貿易關係者ノ會合ノ席上「瑞典ノ戰時通商政策」ト題シ最近ノ當國對外貿易ノ狀況並歐洲經濟新秩序ニ對スル態度ニ付述ヘタルカ右要旨御參考迄左ノ通報告ヌ

一 各國トノ貿易

海外貿易。南北亞米利加方面トノ貿易ノ爲本年一月以降四月末日迄ノ四ヶ月間ニ「ゴテンブルグ」港ニ入港セル瑞典船十隻、同港

ヲ出港セルモノ六隻、之等船舶ニ依ル輸入額ハ七千万冠輸出額ハ三千万冠ニ上リタリ然ルニ右船舶ノ航行ニ際シ大西洋上ニ於テ多數ノ人命及船舶ヲ喪失シタルニ付今後同方面ノ船舶輸送ヲ繼續シ得ルヤ否ヤ目下ノ處見込立タサル狀況ナリ

對獨貿易。本年一月以降四ヶ月間ノ對獨貿易支拂決済高二億三千万冠ニ上リ、之ヲ去年同期ニ比スレハ三千三百万冠ノ増加ナリ然レトモ戰爭ノ影響ニ依リ今後獨逸ヨリノ輸入ハ減少シ從テ瑞典ヨリノ輸出モ減少スルコトヲ豫期セサルヘカラス

對蘇貿易。瑞典蘇聯間通商取極ニ於テ第一年度ノ貿易額ヲ一億八千万冠ト豫定シタルカ、今日迄ノ實績ニ徴シ兩國間貿易ハ右豫定額ニ達スヘシト豫想セラル

丁抹、芬蘭及諾威トノ貿易。之等三國ニ對スル輸出額ハ合計二億冠、輸入額一億六千万冠ト豫定シタル處、輸出入ノ實績ハ當初ノ豫期以上ニ良好ナリ

輸出入品價格問題。輸入品ト輸出品トノ間ノ價格關係ハ一九三八年迄ハ瑞典ニトリ極メテ有利ナリシカ今次戰爭勃發以後一轉シテ不利ナル狀況トナレリ。就中獨逸トノ關係ニ於テハ一九四一年度貿易ニ關スル瑞典獨價格取極ハ一九四〇年ニ比シ瑞典ニ取り明カニ不利トナリタリ

封鎖圈内ノ貿易ノ増進ニ付テハ種々努力ヲ拂ヒタルモ一九四一年度ノ輸出額ハ戰前ニ比シ略半減スヘシト豫想セララル

ニ 歐洲經濟新秩序問題

歐洲經濟新秩序ニ關スル獨逸ノ提案ニ付テ見ルニ戰前獨逸カ巴爾幹諸國農業ノ再建ニ努力シタルコト巴爾幹諸國カ獨逸工業製品ノ販路トシテ重要ナル地位ヲ占メタルコトハ吾人之ヲ否定キサルモ歐洲諸國ノ事情ハ必スシモ同一ナラス。歐洲諸國中ニハ世界市場ノ壓迫ヲ受ケ輸出貿易ノ維持ニ困難ヲ感シタルモノアルモ他方ニハ世界市場ニ於テ十分ナル競争力ヲ有シタル國アリ。歐洲諸國中

經濟的ニ高度ノ發達ヲ遂ケタル國ニ取テハ、歐洲大陸封鎖圈内ニ包含セラレ、世界市場ヨリ隔絶セラルコトハ工業衰微ノ結果トナルヘシ。瑞典ノ工業ニ付テ言ヘハ、經濟上ノ自由ヲ有シタル過去一世紀ハ瑞典ニ取り最モ有利ナリシ時代ナリ。最大ノ經濟生活圈内ニ於ケル通商ノ自由ハ瑞典通商ノ重要ナル條件タリシナリ。吾人ハ歐洲諸國トノ關係ニ於ケル輸入超過ハ歐洲以外ノ海外諸國ニ對スル輸出超過ニ依リ始メテ支拂フヲ得タリ。況ンヤ歐洲諸國ニ對スル數十億ノ資金ノ融通ノ如キ海外貿易ナクシテハ到底不能ナリシナリ。余ハ茲ニ歐洲通商ニ取り瑞典カ全世界ト通商ノ自由ヲ保持スルコトノ極メテ必要ナルコトヲ明言セムトス。

極秘

完結
要再回

昭利 16年總局第 207 號

供高覽

接受 昭和 年 月 日
起案 昭和十六年十一月十七日

接受ヨリ
起案マデ
ノ日數

日

施行 月 日

決判 二月二、三日

洋紙回議用紙

物資動員課長了

主任

總務課長

總務局長

審議室

日智貿易關係繼續ニ関スル件

首題ニ関シ別紙ノ通シ外務省通商局長ヨリ通牒アリタルニ付
不取敢テ記簿ニ註明ヲ附シ

供高覽

說明

日智貿易ニ関シテハ最近南米東岸貿易ノ杜絶ニ伴ヒ漸次主

商工省



要及チ加へ来リ銅、鉛、石、羊毛、コバルト、磁、硝石、マンガン、鐵
 等ノ輸入ニ努メ来リシモ情勢ノ進展ニ伴ヒ目下現地ニ在ル
 ニ隻又(昭川丸及鳴戸丸)ヲ以テ事實上配船杜絶ノ已ムナキ状
 態トナリ外務省ニ於テモ人ノ交流及貿易繼續ノ見地ヨリ貨
 客船ノ配船ニ関シ目下考慮中ニシテ當者關係物質ノ新規
 契約(前拂)差控ハ一ニ右情勢判断ニ基ツケル處ニシテ政治
 的見地ヨリスル貿易ノ繼續ニ関シテハ別途考究ノ要アリ

十二月初旬五番丸トモスル予定ナリト

(注)

極秘

受務局總
16.11.18
第 2071 號

通一極秘合第四二五五號

昭和十六年十一月十日

商工省總務局長 殿

外務省通商局長



日智貿易關係繼續ニ關スル件

本件ニ關シ今般在智利山形公使ヨリ別紙寫ノ通り電報アリタルニ
付御參考迄右茲ニ送付ス

本信送付先 陸軍省、海軍省、逓信省、商工省、大藏省、
企畫院、貿易局

別紙添附

外務省

寫

昭和十六年十一月六日 青島外務大臣宛在智利
山形公使發電信寫

(一日智貿易ニ關スル件)

(1) 取近一週間ニ亘リ富國外相ソノ他俄領事大臣(藏相、商相、勸業相)ヲ歴訪シ智利側カ本國側ノ經濟壓迫ニ屈服シテ對日貿易ノ杜絶ヲ招來セシムルカ如キコト無キ様盡力アリタシト率直ニ申入レタル處三大臣ハ何レモ經濟上ノ對米抵抗ハ智利ノ利益ノ爲ニモ能フ限り續行スル積リナルモ何セ對米經濟的依存ノ立場ニ在ル智利トシテハ右抵抗)ニハ取扱ノ限度アルヘキコトヲ諒解セラレ度キ旨ヲ纏々説明シ居レリ而シテ右取扱ノ限度カ何時到來スルヤハ目下ノ所察測シ得サル次第ナルカ取扱米國側ハ富地ノ有力人士ヲシテ米國側カ智利ニ此ル戰時必需物資ノ對日供給ヲ阻止センカ爲智利ノ產物ノ大量賣出ヲ行ヒツツアリトノ宣傳記事ヲ掲載セシムル等相富踏宵ナル強硬態度ヲ示シツツアルニモ何ラス現在迄ノ所ニ既矣約取引ノ不履行等ヲ申出テタルモノハ皆無ナリ

(四)事情右ノ如キニモ拘ハラズ本邦商社本社側ニ於テハ無暗ニ不安ノ
念ニ驅ラレ智利側ノ希望スル租規契約ノ取極セラモ之ヲ躊躇シ居ル
模倅ナルカ右ハ國策ニ副ハサルコトモ甚シキ態度ト云フ可ク此ノ
際我方ノ採ルヘキ途トシテ慎怡ノ公定或ヒハ前拂金額ノ多寡等ノ
如キ經濟的觀念ヲ第二義的間題トシ或程度ノ危險ヲ冒シテ迄モ速
ニ買付契約ヲ結ビ置キ右ニ對スル不履行ノ具體的事件ノ發生セル
場合ニハ當方何レモ全力ヲ傾倒シテ之ヲ打開スルノ他無カルヘシ
ト存スル處右ハ當國官民ノ對日友好的態度ニモ鑑ミ全然望ミ薄ナ
リトモ思ハレサル次第ナリ

(六)次ニ商用往訪ノ際同大臣ハ英國側ヨリ多量ノ硝石及ヒ羊毛ヲ又「
ヤンキー」ヨリハ鑛物全額ノ買付ヲ申入レ來リ居ルモ自分トシテ
ハ英米側ヨリノ右申入ハ單ナル口頭ノ約束ナルニ反シ日本ハ現實
ニ船舶ヲ廻航セシメテ智利ノ必要物資ヲ供給シ居ル事情ナルニ付
日本トノ貿易杜絶セシムルヲ侍サル旨閣議ニ於テ直言シ其ノ贊成

ヲモ待タル次第ナルヲ以テ今倭共日本船ノ來航ハ是非共繼續セラ
ルル様希望スル旨語リタリ然ルニ我方ニ於テハ加茂丸ノ代船モ未
定ノ由ナル處斯クテハ智利側ニ對シ我方ニ於テハ彼我貿易關係ヲ
繼續スル意圖ナキニ非スヤトノ懸念ヲ與ヘ其ノ結果收拾シ得サル
事態ヲ招來スル惧レアル可ク甚々遺憾ニ堪ヘサル次第ナリ。

(三) 本件日智貿易關係ニ關スル當方ノ事情大体前述ノ通りナルニ付テ
ハ第一新規契約ノ即決第二配船決定ノ二件ニ付キ大至急御詮議相
此段稟申ス

東郷外務大臣宛

昭和十六年十一月六日着

在智利山形公使發電信寫

(日智貿易ニ關スル件)

今般當地ニ於ケル本邦商社ニ對シ本社ヨリ買付ノ爲ノ前拂差控ヘ及
ヒ契約ノ完全解除方指令アリタル由聞込ミタル處右ハ我方ノ配船不
能ニ對スル見越的手配トモ認メラレ斯克テハ前電ヲ以テ委細申進ノ
通り我方トシテハ極力之ヲ回避スヘキ要アリト存セラルルニ付テハ
早急配船方決定相成様致度日智貿易ノミナラス彼我友好關係ノ前途
ニモ鑑ミ頗ル憂慮ニ堪ヘス重ネテ茲ニ稟申スル次第ナリ

極秘

完結
要再回

昭和十六年 總局 第 2070 號

供高覽

接受 昭和 年 月 日
起案 昭和十六年十一月十七日

接受ヨリ
起案マデ
ノ日數

日
決判 三月二、二七日
施行 月 日

物資動員課長

總務課長

總務局長

審議室

南米東岸向船舶ニ関スル件

首題ニ因シ別紙ノ通り外務省通商局長ヨリ通牒アリタル
ニ付不取敢テ記簡單ヨリ説明ヲ附シ

供高覽

説明

南米東岸ニ対スル配船ハ表向停止ヲ發表シアラサルモ事實ハ

商工省

洋紙回議用紙

十一、廿六 警備部

十一月初東亜丸が同地奔航以來社絶ノ状態ニ在リ情勢特ニ
好轉セサル限りまか實現ハ望ミ得サルモノト認ムラルニ付將來ノ
貿易関係ニ関シテハまか整備対策ノ要アリ目下考慮中
ナリ

極
秘

受 務 局
16.11.18
第 2072 號

通一極秘合第四二三一號

昭和十六年十一月八日

商工省總務局長 殿

外務省 通商局長

南米東岸向船舶ニ關スル件

南米東岸向本邦船ニ對スル亞國政府ノ燃料油供給ノ一般問題ニ關シテハ曩ニ十月二十二日附通一極秘合第四〇五三號ヲ以テ申進置キタル處今般更ニ在亞國富井大使ヨリ本件配船實施ノ際ニ於ケル參考事項トシテ亞國ニ於ケル我方買付物資ノ種類及價額等ニ付キ別紙電報寫ノ通り申越シ來レルニ付右何等御參考迄茲ニ送付ス

本信送付先

陸軍省、海軍省、逓信省、商工省、企畫院
貿易局、大藏省

別紙添附

外務省

寫

昭和十六年十一月六日着東郷外務大臣宛在亞國富
井大使發電信寫

(兩米東岸向聘船ニ關スル件)

當方面ニ對スル聘船ニ關シ御詮議ノ際御參考トナルヘキ事項左ノ通
リ

(イ) 我方所要物資ノ當方面ニ於ケル獲得ハ漸次困難トナリ來レル次第
ナルモ羊毛、牛皮、「ケブラツシ」及ヒ「リンシード」等ノ買付
ハ現在猶望ミアリ又要許可金屬類モ「タングステン」ヲ除テハ矢
張り買付可能見込アリ因ミ十二月積出決定ノ本邦商社手持「ボ
ロツクス」「リンシード」等ハ目下三千五百噸以上ニ達スル由ナ
リ

(ロ) 現在當地商人ノ買付能力ハ約二百萬圓位ナル趣ニ付テハ本邦ヨリ
ノ對亞國輸出ヲ可及的多量ニシ就中生糸ノ如キ高價品ヲ増加シ以
テ買付代金ノ支拂ニ充當スルヲ得ハ頗ル好都合ナル可ク此ノ上更

外務省

ニ資金ノ不足ヲ來スカ如キ場合ニハ金塊ノ現送等ヲ行フ他方法ナ
カル可シト存セラル

外
務
省

(日本標準規格B5)